

1 学校教育目標 『ともに学び 心がふれあう学校』 ○ 進んで学習し、気づき、考え、行動できる生徒の育成 ○ 自他を敬愛し、公共心をもった生徒の育成 ○ 心身ともに健康で、最後までやり抜く生徒の育成	2 本年度の重点目標 ① 「教える・育む・鍛える」を意識した「時・場・礼」の徹底による人格形成と心の教育 ② 確かな学力の定着と授業規律の確立 ③ 学級づくり、学年づくりから学校づくりへ(認め合い、高め合う生徒の育成) ④ 進路指導・キャリア教育の研究の推進 ⑤ 特別支援教育の充実
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①『学び合い』等の手法を用い、着実な学力の定着を図り、生徒の目指す進路を達成させる。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌(部)	
運営 学校	○教職員の資質の向上	・教職員の資質・能力の向上	・「鏡ラーニングルール」を基に、授業形態づくりを重視しながら、授業における学びの手法の研究を通して、全員が分かる授業に向けて授業改善を行う。 ・校内研究を充実させることで、各種研修会や校内研究等を通して、全教員が授業の工夫・改善を行う。	・市学力向上指定校の取組をさらに深め、生徒主体の授業づくりにもとづいた指導案の検討や授業実践を行い、授業公開を行う。 ・教育センター講座や研究発表会への積極的な参加を勧め、伝達講習や資料提供を行い、校内研究の内容を充実させる。 ・研究組織を見直し、学力向上と生徒指導の2部会で組織することで、研究の質を向上させ、教職員の資質の向上を目指す。	研究部	
活動 教育	●学力向上	・個に応じた指導、分かる授業に向けた指導方法の改善	・「学び合い」の手法に基づいた「鏡ラーニング」を推進し、学び合う活動を多く仕組んでいく。 ・学力・学習状況調査等の分析に基づき、基礎的な内容を確認しながら、その知識を活用した課題づくりを行う。 ・全国(県)学習状況調査における各教科の通過率が県平均を上まわる教科を前年度より増やす。	・ともに学び合う学習や調べ学習を通して、基礎的な知識の習得をねらい、考察及び表現活動を取り入れることにより、その知識などを活用する能力を高めさせる。 ・生徒の意識調査や分析ツールの活用を促進し、教科等で課題づくりに取り組み、生徒の学びを深めていく。 ・生徒の学ぶ意欲と姿勢を向上させるために、家庭と連携した「主体的、対話的に学ぶ習慣づくり」に努める。	学力 向上 部会	
学校 運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・学校運営を組織的に進め、全職員が校内LANやSEI-Net等を有効活用しながら業務の効率化を図るとともに、業務内容の分散化を行い、校務処理を効率化する。	・企画委員会を中心として、行事や企画を精選するとともに、学年や教科などが組織的に活動しやすい環境をつくる。 ・資料のやり取りや職員間の連絡、統計や文書作成などを効率的に行う。 ・「Googleカレンダー」など限られたソフトで、学校行事や報が確認できるようにするの検証する。	教務	
②人権教育を充実させ、特別支援教育に対する意識も高める。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌(部)	
活動 教育	●いじめの問題への対応	・いじめ問題の未然防止	・「いじめ対策委員会」を定期的に開催することでいじめ問題を未然に防止し、いじめ問題発生件数0件を目指す。 ・日頃の生徒の様子を観察し、全教職員で共有する場をつくり、生徒の変容を見取れるようにする。 ・Q-Uテストを実施し、よりよい学級集団づくりに活用する。	・無記名方式による生活アンケートを定期的実施し、生徒指導部会の中で情報を共有し、その結果を対策委員会で協議することにより、いじめの早期発見・初期対応に努める。 ・個人日記や日頃の生徒の観察などを全職員が意識することで、生徒の変容をできるだけ敏感に見取ることができるようにする。 ・Q-Uテストを実施し、その結果について検討会を開催する。	生徒 指導 部会	
活動 教育	●心の教育	・自他を尊重する姿勢の育成 ・教職員の意識の向上	・生徒の9割以上が授業中も含め、時と場合に応じた態度や言葉遣い、相手を思いやる言葉遣いが出来るようになる。 ・特別支援教育に関する研修を推進することにより、インクルーシブ教育に対する意識が高まるようにする。	・アクティブ・ラーニングにより学習者同士のかかわりを重視し、個と個をつなぐ開発的生徒指導の視点での授業づくりを展開する。 ・自他のよい面を認め、学級や教科等で相手のことを考えた言葉を使うよう指導する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心にインクルーシブ教育についての研修会を開催することで教職員の意識を高める。	生徒 指導 部会	
活動 教育	●志を高める教育	・生徒一人一人が自分の夢や目標をもち、自己実現できるように努力しようとする気持ちを育む教育活動の推進	・「郷土を知ろう」の授業の振り返りを実施し、「わかった」と評価する生徒80% ・自己の夢や目標をたてる機会を設け、自己実現に対する手立てや方法について学ぶ機会を設定する。	・かがみん話Vol. 1, Vol.2(鏡の歴史研究会編)等の郷土資料を使い、「郷土を知ろう」の授業を行う。 ・特別活動において、高校調べや職業調べ、PASカードの実施を行い、自分の適性について知ることで、将来の夢や目標を考える機会とし、自己実現に向けての手立てを考える授業を行う。	道徳 部会 ・ 総合 部会	
活動 教育	○キャリア教育	・職場体験の計画と指導の充実	・職場体験が自我に目覚め、自己肯定感や存在感を高める場となるようにする。	・職場体験や地域の方々の協力を得ながらマナー検定を実施するなど、社会における必要不可欠なスキルやマナーを身に付ける。 ・地域教育力を効果的に活用し、職場体験で開発的生徒指導の場を仕組み、生徒の自己肯定感(自尊感情)を高める。	総合 部会	
活動 教育	○生徒会活動	・ボランティア活動など生徒の自主的な活動の充実	・県内でも最も古いJRC加盟校として、生徒会を中心に行うボランティア活動など、開発的生徒指導の視点で生徒の自主的な活動を仕組み、活躍する場を設定する。	・ボランティア活動について「気づき・考え・実行」できるよう助言・支援を行う。 ・校内のみならず、登校道路の清掃や松葉かきなど地域に根差したボランティア活動を展開する。 ・各専門部の特性を生かし、生徒会本部と協力し、ボランティア活動を行う。 ・活動後は生徒会だよりなどで生徒、保護者に啓発を行う。	生徒 会 担当	
③情報発信、地域との連携に努め、開かれた学校づくりを推進する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌(部)	
学校 運営	○開かれた学校づくり	・学校からの積極的な情報提供	・公開授業等、学校行事への保護者及び地域住民の参加率を前年度よりも高める。 ・毎月、HP及びはなまる連絡帳の更新並びに学校だよりの発行をする。	・「毎日が授業公開日」を継続し、授業・行事等への保護者・地域の参加の促進を行う。 ・HP及びはなまる連絡帳を更新する担当者を各学年に増やし、機会あるごとに更新することに心がける。	教務	
学校 運営	○小中連携	・小中連携を一層深め、指導の充実 ・地域との連携の強化	・小中9年間を通して共通した取組みを行い、生活ルールや学習規律を身に付けさせ、小中のギャップをなくしていく。 ・地域の人材を活用し、生徒の健全育成を行う。	・小中連携推進委員会を行い、方針を立て、実践へつなげる。 ・授業参観・情報交換会を実施し、共通理解を深めていく。 ・各種活動において地域の人材を活用し、地域と学校の協力関係を築く。	教務	
活動 教育	○生徒指導	・開発的生徒指導の実践	・全職員が開発的生徒指導の理念に基づき、生徒が活躍できる場をより多く設定する。 ・職員の共通理解を図る。 ・全校生徒一斉の生活指導を実践する。	・年度当初の会議での提案を十分に理解し、実践する。 ・毎週、実施している生徒指導部会で、各学年の現状を共有することで、出てきた課題については、全体的問題として手立てを考える。 ・家庭での生活習慣は保護者育友会活動の協力を得て、好ましい生活習慣及び生活態度の確立を目指す。	生徒 指導 部	
活動 教育	●健康・体づくり	・性教育、命の教育の推進 ・食育の推進 ・基礎体力の向上	・性教育、命の教育を実施して自尊感情を高める。 ・食事の大切さの意識付けを行う。 ・運動に進んで親しもうとする意識を高める。	・生(性)教育についての講演会を行う。 ・食生活アンケートや食育の授業を実施する。 ・授業や委員会活動の中で運動に対する認識を高め、スポーツに親しむ環境を整える。	保健・ 体育 部	
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌(部)	担当者